青井記念館美術館

はぐくみ会だより

第 26 号　　平成20年11月１日

所蔵作品紹介 (25)

「春秋文手焙」　(200×径120)

浅野　廉　作

卵を逆さに立てたような単純な形をした手焙（てあぶり）である。

正面の口部から中へ炭火を入れて、お茶席に用いられた暖房器具の一種である。春の器には紅梅、秋の器には野菊の文様が頭部から背後に描かれている。

寸法は高さ20㎝・径12㎝。上絵に九谷焼顔料の色合いもある美しい陶器である。

作者は第８代校長浅野廉（昭和15・８～昭和22・５）である。明治22年新潟県長岡市に生れ、大正４年東京美術学校図案科を卒業。その後石川県商品陳列所に入所し、９年～15年まで所長となる。この間、九谷焼及び工芸指導に尽力され、さらに、古陶器の研究と作陶も学ばれている。

本校退官後は陶画・作陶・漢詩・茶道などを余暇として過される。昭和47年没。

作品の寄贈は、昭和16年応用化学科を卒業された安川三郎氏で、永らく新潟大学教授として奉職されておられました。去る平成12年春の叙勲を受けられた折に記念として母校へ寄贈されました。

活気みなぎる

同窓生ギャラリー（報告）

5月31日(土)～6月29日(日)

“親子三代展 書作展大盛況”

中村哲浩（号宋琳）氏は、昭和55年建築科を卒業され、父・松崖氏の姿をみて書道を始められました。その後、恵まれた環境により、子供達も書道に惹きつけられ同様に歩み始めておられます。

親子三代展は、父・松崖氏・宋琳氏・長男大郁さんの――歩んできた道、そしてこれから――をテーマとして、三氏はそれぞれ手習の作品から本格的に書道の道を歩んできた道程を年代順に展示されました。松崖氏は、「書は臨書から始まる」と考え、基本を守り納得いくまで書き、中でも日展入選作「寒山詩」や、臨書作品の数点は感銘深いものでした。

宋琳氏は小学校書き初め大会で金賞を受賞された書「世界平和」は直線や押え、跳ねなどがしっかり揮毫され今日の片鱗を伺わせています。また、昨今の柔らかく書かれた雪心会大賞作品や、県の四十人展作の「遊戯三昧」の大作には独自の世界が築かれています。

大郁氏は、力強い作風で、二十代半ばにしてすでに公募展に出品され、読売書法展特選を受賞。また、若干25才の若さで日展に初入選を果たされ、喜ばしい限りであります。

美術館全体に大作から小品など35点を展示された他、文房四宝に硯・墨なども陳列され、約一ヶ月間連日各氏の知人の方々が沢山来館されました。中頃には、東京より芸術院会員高木聖雨先生が激励にお越しになるなど盛会の内に幕を閉じました。

解説する宋琳氏

常設展Ⅰ期 7月11日(金)～9月7日(日)

「工芸学校ゆかりの日本画家たち」

工芸学校の絵画担当教師は、中島次郎・加藤丑之助・村金平の三氏であり、主に日本画を指導されました。本展では、教師陣と同時代に在学した卒業生との作品20点を展示。主な作品として塩崎逸陵・郷倉千靭・村閑歩・昇外義・十二町仁三などを並べました。関連して各氏の画集や加藤先生の写生も展示し、見学者の方々もあらためて高岡工芸の伝統に感動を覚えられたようです。

常設展Ⅱ期 9月17日(水)～11月9日(日)

「高岡工芸と茶道具」

本校の収蔵品中、工芸品は6割をこえ、金工類は最も多くあります。それらの中から茶道に使う道具をまとめて展示しました。

釜・風炉を始め、花入れ、水指し、香合抹茶碗などを並べ、メインの展示ケースでは、裏千家家元の書、前に江戸中期備前焼の花入れ、香合は加納夏雄を配してみました。

63点の各道具を展示ケースごとに、明治期から現代作家まで並べ、趣き深い展覧会となり好評でした。

8月9日(土)～9月7日(日)
「能町茂治南画展」

南画院同人の能町氏（号草風）は、昭和20年金属工芸科を卒業。今年で82歳のご高齢になられましたが、同級生で本校前美術館長山本実氏らも激励に来られました。

本展では平成元年から昨年まで、額装の大作から小品の軸装など31点を展示。風景を画題として信越地方から福井、石川、富山県の山村を描かれ、そこに生活する素朴な人々を画中に配するなど魅力的な作品でした。連日、南画会の方々が来館され活況がありました。

詩情豊かな作品群

9月13日(土)～10月5日(日)
「青湧会展」

昭和33年卒業の太田(油絵)、北村(油絵)、坂井(漆芸)、中川(ステンドグラス)の4氏に日本画・ちぎり絵・焼コテ絵・工芸など20名の会員で開催されました。

会場全体は60点の作品で埋めつくされ、籐細工による新しい表現のパネルや焼コテを使って描かれためずらしい技法の作品の他、写真ではダルマ型に撮影された朝陽の作品などに迫力があり来館者は見入っておられました。

賛助出品として、33年卒業生の恩師、池上栄一先生（陶芸）の花器2点も加わり会場を盛り上げていました。会員の友人も沢山見学に来られました。

観覧者で賑わうオープニング

10月15日(水)～11月3日(月)
尚美展関連作品展
「同窓生作品展」

尚美展開催に併わせて一足早く15日より同窓生18名と旧職員1名が・工芸・写真・書・デザインの作品29点を出品されました。昭和16年卒業の80代半ばのベテランから昭和58年卒業の作家まで多様な年代の作品が並べられ、とりわけ須賀月芳・月真両氏の蝋型鋳造の置物や花器、竹田貞郎氏の漸新な掛軸など来館者の注目をひき評判でした。

臨時　5月13日(火)～24日(土)
「特別寄贈の名品展」

本校では、創立80周年に初代校長納富介次郎晩年の作品をお孫さんの二郎氏より、100周年には青井忠雄氏より山崎覚太郎の作品を篤志により寄贈頂いております。本展では、この2作品を含めこれまで公開される機会の少なかった寄贈作品30点を展示しました。

特にデザイン10点（ポスター「ヒロシマ・アピールズ」）は、国際的に活躍するグラフィックデザイナーの作品とあり、観覧者の関心も高く好評でした。

文化部合同展　7月11日(金)～31日(木)

7月中旬には、文化部合同展が開かれました。8つの文化部ならびに同好会に加え、工学部系の作品などを美術館半面に展示しました。文化部として放課後などに制作した作品を一堂に会した展覧会ですが、生徒自身の作品展示であるだけに、会場は友達の作品を鑑賞する生徒達で盛況でした。昨年度より、二上工業高校の作品も交流活動の一貫として展示しています。

初日のオープニングはブラスバンドの生演奏で開会され、また、期間中には茶道部の茶席も設けられるなど、外来者の方々にも楽しんでいただけました。

寄贈作品紹介

平成19年度

「端龍」（蝋型鋳造）
須賀七郎氏（昭和28年金工科卒）
作者寄贈（高岡市在住）

「水紋透水指」（蝋型鋳造）
須賀真一氏（昭和38年金工科卒）
作者寄贈（高岡市在住）

平成15年度

「朝顔」（日本画）
昇　外義氏
（昭和18年12月図案科卒）
塚本武彦氏
（高岡市在住）より寄贈

平成20年度

「丘の道」（日本画）
石﨑外志雄氏
（昭和29年図案絵画科卒）
作者寄贈
（南砺市在住）

「柿秋」（南画）
能町茂治氏
（昭和20年金工科卒）
作者寄贈
（高岡市在住）

1983 亀倉雄策

1984 栗津　潔

1985 福田繁夫

1986 早川良雄

1987 永井一正

1988 田中一光

1989 勝井三雄

2005 仲條正義

2006 佐藤晃一

2007 松永　真

「ヒロシマ・アピールズ」（デザイン）
社団法人日本グラフィックデザイナー協会 富山地区より寄贈
吉野光男氏（昭和47年デザイン科卒）（富山市在住）

催事案内

第15回青井中美展　11月19日(水)～12月7日(日)
常設展Ⅲ期［工芸高校所蔵名作展］　12月18日(木)～2月18日(水)
同窓生ギャラリー
第51回「Yes！～H16年度卒業生作品展～」　1月15日(木)～2月18日(水)

はぐくみ会会員募集のおしらせ

はぐくみ会では会員を募集しています。申し込まれた日から一年間会員となります。

主な活動
1　青井記念館美術館への協力・支援
2　中学生美術展（青井中美展）への支援

特典
1　企画展等の案内
2　はぐくみ会だよりの配布

年会費
一般会員（個人）　二、〇〇〇円
特別会員（企業、団体等）　一〇、〇〇〇円

お問い合わせ・申し込み先
青井記念館美術館はぐくみ会事務局

編集後記

今年度の来館者数は、昨年度に比べ大幅に増えました。同窓生ギャラリーを開催された方々の交友の広さや高岡市美術館における開町400年記念に伴う大きな展覧会のおかげかと思います。この機会を機に青井記念館美術館がより多くの人に親しまれる事を期待しております。

（端野）

編集発行
富山県立高岡工芸高等学校
青井記念館美術館はぐくみ会
住　所　〒933-8518 高岡市中川一-一-二一〇
TEL（〇七六六）二二-一六三〇（内線611）
FAX（〇七六六）二二-一六三一

＊青井記念館のホームページを開設しております。
http://www4.justnet.ne.jp/~kougei-2/